

コミュニティ・スクールだより

第44号

名張市教育委員会事務局発行 令和6(2024)年7月19日

子どもを「まんなか」に 大人一人ひとりが『当事者』に！

市内すべての小中学校において、令和6年度の第1回学校運営協議会が1学期前半に開催されました。子どもを中心に据えた各校の教育目標実現を目的に、学校運営協議会の委員の一人ひとりが、『当事者』として学校運営に参画するという意識をもって臨まれていました。

市内すべての小中学校がコミュニティ・スクール（以下、CS）となって4年目となる今年、今までよりもさらに充実した取組となるよう、今号では各校の学校運営協議会の様子やその工夫について紹介します。

熟議の目的を明確にする



梅が丘小学校では「CSカリキュラム」の充実をめざし、「**小学校の間に体験させたい・学ばせたい・身につけさせたい事**」についてグループで熟議を行いました。学校教育目標を具現化するために、1～6年生の年間教育課程に地域カリキュラムを取り入れたものが「CSカリキュラム」です。その「CSカリキュラム」も含め、学校支援や地域団体の活動など、学校と地域の活動計画全体を示した「CSカレンダー」をもとにして、委員一人ひとりが子どもの具体的な姿を思い描きながら、たくさんの意見を出し合い、グループ→全体→まとめと練り上げていました。

この「CSカレンダー」は、**地域の方々が『当事者』意識を持ち、学校運営に参画し、めざす子どもの姿の実現という共通の目標に向かって協働の歩みをすすめるCS推進の具体的なツール**のひとつとなります。そして、学校と地域をつなぐ貴重な情報源であるだけでなく、いざという時に力を発揮する強力なネットワークにもつながるはずです。

熟議で全員の意見を吸い上げる



比奈知小学校では「豊かな心を育むために、私たちができることを考え、知恵を出し合う」ことをテーマに、今ある「CSカレンダー」を見直すための熟議を行いました。

学校側が希望している取組について、依頼が可能な地域の方を紹介していただいたり、めざす子どもの姿の実現に向けて、地域で支援できる新たな取組

について提案していただいたりと、一人ひとりが知恵や経験を出し合い、これからの取組に反映させられるように話し合いました。

年間数回の会議ですが、学校の課題解決のための話し合いを充実させるためには、**運営協議会の持ち方や運営の仕方の工夫**が必要です。熟議の内容についても、**事前に資料配付し、『当事者』としての意見をもって参加してもらえよう**と、多くの学校で工夫しています。

教職員一人ひとりも『当事者』意識をもつ

桔梗が丘東小学校では、**第1回学校運営協議会に教職員全員が参加し、楽しい自己紹介で顔合わせした後、部会に分かれて全員参加の熟議**を行いました。部会それぞれの今年度の取組や、課題を出し合い、またその解決に向けた意見交換が活発に行われました。



名張中学校では、CSの取組について**教職員の意識を高める**ことを目的に、各学年から一人ずつ教員が参加するという工夫をしています。

めざす子どもの姿を共有し、ともに育てていく教職員も一人ひとりが『当事者』です。子どもを「まんなか」にして、何ができるかを考え、それぞれの立場で行動を起こすことが求められています。



生徒会も参加し、今年の活動の目標や取組を紹介しました！

★次回は、CSを通して成長する子どもたちの姿についてお伝えします☆